

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100861		
法人名	有限会社 ラ・ヴィ		
事業所名	グループホーム ソレイユ 2階		
所在地	札幌市中央区南7条西11丁目1番1号		
自己評価作成日	平成24年7月17日	評価結果市町村受理日	平成24年10月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kan=true&JigyosyoCd=0170100861-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当ホームではレクリエーションに力を入れております。毎月必ず行われているレクリエーション(抹茶会・お食事会・ダンス・音楽療法・映画鑑賞)の他に、暖かくなる6月中旬～秋頃の9月の間には動物園・カラオケボックス・大通公園・定山溪温泉・町内のお祭り・ホテルのバイキングなどに出掛けています。
特に利用者様が喜ばれるレクリエーションが《定山溪温泉》です。
約35名が大型バスに乗り、定山溪に向かいます。露天風呂に入り浴衣を着て、豪華なお食事とビールで乾杯!!いつも以上の笑顔を見せてくれます。
毎回どのようなレクリエーションを行えば利用者様に喜んで頂けるか、毎日スタッフで考えています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階		
訪問調査日	平成 24 年 7 月 27 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌都心部から至近距離にあり、地下鉄・バスによる交通至便の地に位置するホームは、5階建てビル内に医療クリニックと老人ホームが併設されているため、これらの事業所との連携が利用者の健康管理や合同行事などホーム運営に相乗効果を上げています。とくに、多数の看護師在職と医療機関の存在は、利用者と家族に多大な安心感を与えています。ホームは、利用者が変化のある充実した生活を楽しんでもらおうとソレイユ祭り、運動会、寿司パーティ、温泉ドライブ等々と頻りに多彩な行事を実施して喜ばれており、利用者のADL(日常生活動作)の維持や地域との連携にも貢献しています。ホーム開設後10年目を迎えましたが、ゆったりとした建物内部は職員の努力で清潔感を維持しており、1階には広い多目的スペースがあって、ここで会議や各種イベントの開催、来訪者の応接などに広範囲に利用されており、運営に便利な構造のホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族になろうを理念に管理者と職員は、その理念を共有して実践している。	ホームは、利用者が家族の一員として共に楽しく充実した生活を過ごす事を内容とした理念を持ち、ホーム内に掲示しています。職員は、日常の介護業務においても理念を意識し、共有するように努めています。	理念はホームページに掲載し、パンフレットを手渡す時には理念が書かれてる書面を渡し口頭でも説明をしているが、ホーム運営上の大切な基本事項ですので、外部の人が理念を確認しやすいように次回パンフレット作成時にはパンフレット内のどこかに記載することの検討を望みます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩・買い物を通して近所の人たちとコミュニケーションをとっている。	ホーム所在地の町内会活動は都市中心部ということもあり、やや低調ですが、管理者が町内会役員であり、子供たちの慰問やソレイユ祭りなどホーム側からの積極的な交流と利用者の周辺散歩や買い物など地域とのつきあいがあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設のホームページにて情報を発信、相談などは窓口・ホームページ上から受け付けており、地域貢献に活かされている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、施設の代表・家族・町内会長たちが出席し、開催。意見をサービスに反映させている。	会議は、行政及び町内会関係者、家族の参加を頂きながら年6回開催しています。参加者からの提案で1階スペースを利用したイベントの開催など会議からの意見等をホーム運営に反映させて効果を上げています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を実施し、情報提供に努めている。	管理者は、ホーム運営上の問題などの相談や情報交換を頻繁に行い、さらに、各種会議を通して行政関係者と接触するなど札幌市との連携と協力関係構築に努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回は身体拘束会議を開催して、身体拘束について見直し・拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束会議の毎月開催、外部研修参加と内部研修の実施、リビングの見守りカメラによる事故状況の確認と職員研修への活用などに取り組んでいます。ユニット入口は、諸状況や家族の要望で施錠していますが、利用者の出入りには職員が素早く対応して利用者に閉塞感を与えないよう配慮しています。	ホームは、身体拘束関連について他グループホームには見られない万全の体制で取り組んでいますが、毎月開催の身体拘束会議の議事録内容について、わかりやすい記載方法を検討願います。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設での研修会で職員は虐待について学び、理解をして虐待防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学び、理解して活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の先には、十分な説明を行い、疑問点に答え、納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入口に意見を聞く為の箱が設置されており、それらを基に運営に反映するよう努めている。	利用者の様子は、家族来訪時や電話で伝え、ソレイン通信では一人ひとりの近況報告を併設クリニックからの報告も併せて記載されています。家族からの要望等は、職員会議で具体的対応策を協議しながら課題解決に努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内で行われる会議等で、常に意見や提案を聞き、反映させている。	職員会議で職員の要望や提案を聞くようにしていますが、管理者と職員との個別面談や複数人での懇談を随時実施しており、ホーム運営に活かすようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力・勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受ける機会に恵まれ、職員は徐々にレベルアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は施設外の研修会などに参加して、ケアの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報を基に、本人との会話を多く持ちながら、気兼ねなく本音を話せるような雰囲気を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が気兼ねなく本音を話せるように、ゆったりとした対応で親身に話を聴く雰囲気を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人らしさを大切に、ストレスなく過ごして頂けるよう、コミュニケーションを図り、入居者様・御家族様と一緒にひとつひとつ相談し流動的に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが何でもやってしまう事が無いように、本人のできる事を見つけてお願いしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何でも家族に相談するを忘れずに、家族と一緒に検討するように心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、本人の希望が叶うように、方法を検討している。	利用者の希望する場所への外出付き添い、家族や馴染みの知人への連絡等を支援し、知人等の来訪には居心地良く過ごして頂くように配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間関係が穏やかである為に、トラブルを未然に防ぐよう見守っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時の状況や退居後も相談し合い、入居者様・ご家族様になつとして頂けるよう心掛け、退居後も相談していただけるような良い関係になれるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の好むこと、喜ぶことを見つけるため、コミュニケーションをとる時間を大切にしている。	利用者の生活歴を家族から情報収集し、日常のサービスからの様子や利用者の行動及び表情から思いや意向を汲み取るように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からは勿論、家族からも積極的に情報を知る為にコミュニケーションを図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日偏りなく全員の様子を知る為、コミュニケーションをとる時間を大切にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族との会話を大切に、小さな情報も逃さない。スタッフ間での情報交換を強化している。	ケアプランの見直しは、家族の要望や意見を聞きながらアセスメントとモニタリングを繰り返し、職員同士の情報交換を行いながら現状に即した内容のプランを作成して全職員の共有としています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を漏れなく共有するために、申し送りノートやケース記録を再確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応方法を全スタッフで話し合い・実践・評価を繰り返しながら適切な対応を探究している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	段ボール回収を始め、当事業所のイベントに町内会長や近隣の小学校などからも参加していただいている。また、散歩の際など、近隣の方と交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を優先している。	併設クリニックの受診をしていますが、利用者や家族の希望で他医療機関の受診も自由です。併設クリニックでは、利用者の症状に応じて適切な協力医療機関を紹介しており、家族も安心しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師と連携をとり、相談し、報告をして、適切な指示を受けて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職場内の看護師や、入院先の看護師に情報提供し、安心して治療し、早期に退院できるように協力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医師の判断に基づき、当事業所と入居者様・御家族様と話し合いを持ち、方針について支援できるよう取り組んでいる。	ホームは、利用者の重度化等の状態変化に応じて医療機関や家族と慎重に相談しながらできるだけ家族の希望に沿えるように努めています。終末期に対しては、医療機関への移行などの支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や自己発生時のマニュアルがあり、研修会やミーティングなど日頃から実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては、毎年防火訓練や避難訓練を行っている。業者の方を招いて説明を受け、身に付けている。	消防署の指導を受けながら併設他事業所と合同で年2回の避難訓練を実施し、運営推進会議で地域の協力要請によって町内会長も参加しています。また、救命救急チームが避難時の搬送計画やAED研修実施等に努めています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重してプライバシーに配慮した声掛けや対応をしている。	職員は、利用者が人生の先輩である事を意識し、名前の呼び方や日常のケアサービスに誇りとプライバシーを損ねないように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気兼ねなく、思いや希望を表現できるように温かくゆったりとした姿勢で見守っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースに合わせ、押し付ける事なくできるだけ希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	とくに起床時は身だしなみに気をつけて行っている。おしゃれのアドバイスも時々行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや意見を聞きながら、メニューを作成したり、一緒に調理や片づけ・準備などを行っている。	管理栄養士が献立を考え、一部利用者は食事準備、片付け等を手伝っています。食事時には、職員も一緒に同じ食事を取りながら支援しています。ホームは、外出行事も多く、その際に外食をして利用者には喜ばれています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日記入して利用者様一人ひとりの状態に応じて確保できるように声掛けをしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝前に利用者様一人ひとりの口腔内の状態に応じてケアをしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握して、見守りをしたり、声掛けをしたり誘導を行うなどしている。	利用者の排泄パターンをチェックし、時間と利用者の様子を見ながら声掛け誘導を行ってトイレでの排泄に努めています。利用者によってはおむつやパットの使用を減少させてトイレで排泄できるように支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫（牛乳やヨーグルトの摂取）や体操・散歩などに取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ利用者様の希望や時間帯を合わせて、楽しくゆったりと入浴していただけるように配慮する。	午後の時間帯は利用者が楽しむ種々の行事があるため、主として午前中に週2回以上を目途として入浴を行っています。利用者が入浴を拒む場合も無理をせず清拭等で入浴を次回に延期するなど柔軟に対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの生活習慣を把握して、状況に応じて安心して休息したり、良く眠れるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様全員の薬の管理を行い、薬の目的や用法・容量についてはリストを作り理解している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の得意としている事を活かして、役割を決めて、お手伝いとして気分転換をしていただいている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週3回以上の外出が出来るように計画的に予定を立てている。また、事前に連絡をいただき、医師に確認の上（体調など）外出は可能。家族と連絡を密に取り合い支援している。	日常的にホーム周辺や近くの公園を散歩し、買い物や喫茶店へも出かけています。外食を含めた外出行事として車で温泉や動物園などに出掛けることが頻繁にあり、利用者も変化のある生活を楽しんでいます。冬期間もできるだけ外出機会があるよう車両を利用しながら支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫にて管理し、状況に応じてその都度必要な金額を出している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に一度、ソレイク通信を発送し、近況報告をしている。電話の希望がある時は、できる限りの支援を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、毎日掃除を行い清潔を保っている。強い日差しがある時には、カーテンなどで日陰を作る等の配慮を行っている。居心地が良い空間作りを心掛けている。	開設後10年目を迎えますが、ホーム内は総じて清潔感が保たれています。建物内部は空間のある広々とした構造で居間兼食堂も広くエアコンも設置されています。1階には会議やイベントに使用できる広い多目的スペースがあり、利用者もここで喫茶コーナーや各種イベントを楽しみながら過ごしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルの配置は入居者様同士の相性などを配慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、安全を確保しつつ、本人の希望される配置にしている。	居室は十分な広さがあり、窓から街なかの風景が楽しめます。利用者は、昔馴染みや好みの調度品を自由に持ち込んで配置し、居心地良くのんびりと暮らしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事やできる可能性がある事を維持・向上出来るよう努めている。			